

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)

「青峰楽団」が結成

2015年7月28日付『朝鮮新報』によれば、金正恩第1書記の直接的な発起によって「青峰楽団」が結成された。同楽団は「独特な声色融合のアンサンブルと金管楽器中心の軽音楽が調和した新しくて特色のある朝鮮式の軽音楽団であり、旺載山芸術団の実力ある演奏家と牡丹峰重唱組で中核的な役割を果たしていた歌手らが網羅されている」とのことだ。

標準時の変更、平壤時間(UTC+8.5時間)制定

2015年8月7日発『朝鮮中央通信』によれば、同5日、最高人民会議常任委員会は、「東経127度30分を基準とする時間(現在の時間より30分遅れ)を朝鮮民主主義人民共和国の標準時間と定め、平壤時間と命名する」内容の政令を發布した。同時間は同年8月15日から適用され、ERINAによる現地調査で実際に旧時間の8月15日午前0時30分に新時間の午前0時とする調整が行われたことを確認した。

第5回羅先国際商品展示会開催

2015年8月20～23日、羅先市の羅先展示館において、第5回羅先国際商品展示会が開催された。同展示会には、北朝鮮の他、中国、ロシア、ドイツ、ドミニカ、イタリア、カナダ等の国から90強の団体が参加した。

羅先市で洪水被害

2015年8月26日発『朝鮮中央通信』によれば、同月22日4時～23日22時の間に羅先では250ミリを超える降雨を観測した。特に、22日16～19時までの雨量は155ミリに達した。これにより、羅先市では、40名以上の人命被害が出たほか、1070棟、5240世帯の住宅に被害があった。

同月28日発『朝鮮中央通信』によれば、これに関連して金正恩第1書記は、同月27日朝鮮労働党中央軍事委員会拡大会議において、「人民軍隊が羅先市被害復旧作業を全面的に担当し、党創建記念日(10月10日)以前に完全に終えることに対する最高司令官命令を下達し、羅先市被害復旧戦闘指揮司令部を組織した。

南北関係が緊張、その後一転して対話による解決に

2015年8月4日、軍事境界線の南側で韓国軍兵士2名が巡視中に地雷とみられる爆発で負傷した。これに対して韓国軍は朝鮮人民軍に対する「報復」として、同8月10日に軍

事境界線沿いに設置されているスピーカーを通じた政治宣伝放送を始めた。これが北を刺激し、同8月20日には北が軍事境界線の南側に砲撃をしたと韓国軍は主張し、これに対抗して南も軍事境界線の北側に砲撃を行った。

これに対して北の朝鮮人民軍総参謀部は同日17時に緊急報道を發表し、「心理戦放送」を中止しなければ「48時間以内に対北心理戦放送を中止し、全ての心理戦手段を全面撤去しなければ強力な軍事的行動に移る」とした。同日18時には朴槿恵大統領が国家安全保障会議常任委員会を招集し「北の挑発には断固たる対応を取れ」と指示した。同日夜、金正恩第1書記は朝鮮労働党中央軍事委員会非常拡大会議を緊急招集し、翌8月21日17時から前線地帯に準戦時状態を宣布する人民軍最高司令官命令を下した。

期限の迫る同22日午後、朝鮮中央通信は「現事態に関連して大韓民国青瓦台国家安保室の金寛鎮室長、洪容杓統一部長官と板門店で緊急接触を行う」と異例の「大韓民国」「青瓦台」という表現を用いて南北会談の開始を報じた。ソウル時間の18時30分(平壤時間の18時)北から黄炳瑞軍総政治局長、金養建党統一戦線部長、南から金寛鎮国家安保室長、洪容杓統一部長官の陣容で、南北会談は板門店の韓国側施設の「平和の家」で開始した。翌23日早朝まで10時間に及ぶ会談が続いたが、結論は出ず、同日のソウル時間15時30分(平壤時間の15時)から25日の0時55分まで断続的に続いた。2時過ぎに青瓦台は記者会見を行い、6項目からなる「共同報道文」を發表した。

金正恩第1書記が羅先市視察

2015年9月18日発『朝鮮中央通信』によれば、金正恩第1書記が洪水被害の復旧を行っている羅先市先鋒地区を視察した。

羅先市復旧作業完了

2015年10月14日付『朝鮮新報』によれば、羅先市被害地域の住民たちが新居への引っ越しを行った。市内の先鋒地区白鶴洞に1,300余世帯の平屋住宅と託児所、幼稚園、総合サービス施設が整えられた住宅地区が形成されたほか、清溪洞、踰峴洞、寛谷洞をはじめとする各所に500余世帯の住宅が新たに建てられた。

現地関係者によれば、被害を受けた地区をそのまま復旧するのが無理な地区もあり、住宅建設を急ぐ関係上、新たな住宅地を建設する方向で復旧が進んだ地区もあるということであった。

(ERINA調査研究部主任研究員 三村光弘)